

令和3年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第4号(7月予報)

○向こう1か月の天候の見通し(令和3年6月17日発表:沖縄気象台)

平均気温	降水量	日照時間
平年並か低い	平年並か多い	平年並か少ない

○7月の発生予報 (沖縄群島)

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		6月の発生量 (平年比)	6月からの増減	7月の発生量 (平年比)	その他、気象要因等あれば記載
カンショ	① ナカジロシタバ	やや多	↗	やや多	平年の発生量の推移(↗)
	② イモキバガ	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
(温州かんきつ)	① かいよう病	やや多	↗	やや多	平年の発生量の推移(↗)
	② 黒点病	多	→	多	平年の発生量の推移(→) 今後1か月の降水量が平年並か多い見込み
	③ そうか病	やや多	↘	やや多	平年の発生量の推移(↘)
	④ ハダニ類	多	↗	多	平年の発生量の推移(↗)
(タカンカキ)	① かいよう病	多	↗	多	平年の発生量の推移(↗) 今後1か月の降水量が平年並か多い見込み
	② 黒点病	多	→	多	平年の発生量の推移(→) 今後1か月の降水量が平年並か多い見込み
	③ そうか病	多	→	多	平年の発生量の推移(→) 今後1か月の降水量が平年並か多い見込み
	④ ハダニ類	やや多	↗	やや多	平年の発生量の推移(↗) 今後1か月の降水量が平年並か多い見込み
マンゴー	① チャノキイロアザミウマ	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	② マンゴーハフクレタマバエ	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)
	③ ハダニ類	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※(発生なし)は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量(現況)と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○7月の発生予報つづき（沖縄群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		6月の発生量 (平年比)	6月からの増減	7月の発生量 (平年比)	その他、気象要因等あれば記載
ヘ チ マ	① ハモグリバエ類	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移（→）
オ ク ラ	① チョウ目幼虫 (オオタバコガを除く)	やや多	↗	やや多	平年の発生量の推移（↗）

○その他注意すべき病害虫（沖縄群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さ と う き び	ツマジロクサヨトウ	5月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されている。培土時に粒剤の株元散布を行う。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
(か ん み つ か)	サビダニ類	果実と葉に寄生して、被害を及ぼす。梅雨明け以降に発生が多くなることから、薬剤防除を徹底する。
(た か ん か き ん つ)	サビダニ類	一圃場の果実で多く発生していた。本類は果実と葉に寄生して、被害を及ぼす。梅雨明け以降に発生が多くなることから、薬剤防除を徹底する。
マ ン ゴ ー	炭そ病・軸腐病・すす点病	出蕾・開花期から感染が確認されているので、登録農薬によるスケジュール散布を行う。
	ドクガ類	病害虫防除員報告（本島北部）によると、一部圃場で若齢幼虫が多数見られた。施設内をよく見回り、早期発見・防除に努める。
ヘ チ マ	ワタヘリクロノメイガ (ウリノメイガ)	ワタヘリクロノメイガ（ウリノメイガ）の幼虫が多く見られ、若齢幼虫は葉裏から葉肉を食害するので葉は白く膜状部を残すのみとなり、葉の上には多数の糞が見られた。老齢幼虫は巻き葉内におり、殺虫剤が効きにくいので、若齢期の防除が望ましい。登録農薬を散布する。

令和3年度 宮古群島 病害虫発生予報 第4号(7月予報)

○向こう1か月の天候の見通し（令和3年6月17日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
平年並か低い	平年並が多い	平年並か少ない

○7月の発生予報（宮古群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		6月の発生量 (平年比)	6月からの増減	7月の発生量 (平年比)	その他、気象要因等あれば記載
マン ゴー	① ハダニ類	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	② チャノキイロアザミウマ	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）
オ ク ラ	① フタテンミドリヒメヨコバイ	やや多	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	② チョウ目幼虫 (オオタバコガを除く)	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）
	③ オオタバコガ	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（宮古群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
マン ゴー	炭そ病・軸腐病・すす点病	出蕾期から感染が確認されているので、登録農薬によるスケジュール散布を行う。

令和3年度 八重山群島 病害虫発生予報 第4号(7月予報)

○向こう1か月の天候の見通し（令和3年6月17日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
平年並か低い	平年並か多い	平年並か少ない

○7月の発生予報（八重山群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		6月の発生量 (平年比)	6月からの増減	7月の発生量 (平年比)	その他、気象要因等あれば記載
さとうきび	① バッタ類	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
マンゴー	① チャノキイロアザミウマ	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	② マンゴーハフクレタマバエ	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）
	③ ハダニ類	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
オクラ	① うどんこ病	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
	② フタテンミドリヒメヨコバイ	やや多	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	③ オオタバコガ	やや多	↗	やや多	平年の発生量の推移（↗）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（八重山群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	ツマジロクサヨトウ	6月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されている。培土時に粒剤の株元散布を行う。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
オクラ	ハダニ類	6月の調査では、調査した全てのほ場で発生が確認された。農薬散布の際には、同系統薬剤の連用は薬剤抵抗性発達の原因となるため、ローテーション散布を心がける。